

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	地域・在宅看護論Ⅰ (暮らしを支える看護)	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(2)	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 個人・家族を支える環境としての地域を理解する 2. 個人・家族の暮らしを理解する 3. 自らの健康を維持できるよう継続的に暮らしを支える看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	個人・家族を支える 環境としての地域 の理解Ⅰ	1. 地域の生活環境が健康に与える影響 1) 文化的環境 2) 社会的環境 3) 自然環境	講義	
2		2. 看護が提供される多様な場の理解Ⅰ	講義 GW	
3		2. 看護が提供される多様な場の理解Ⅱ	GW 発表	
4		3. 地域で生活する人々の理解 1) 個人の生活構造と地域特性 2) 健康支援活動 ヘルスプロモーション プライマリヘルスケア	講義	
5	個人および家族の 暮らしの理解	1. 家族の役割 1) 家族のとらえ方 2) 家族の機能と役割	講義	
6		2. 地域・在宅看護の対象 1) 個人・家族、集団、組織、地域 2) 健康状態(健康な状態～終末期) 3) 発達段階(胎児期～老年期)	講義	
7	自ら健康を維持で きるよう継続的に 暮らしを支える看 護の理解	1. 在宅看護における法制度と施策 1)医療保険、介護保険制度と施策 2. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステム 2) 多職種連携、協働の意義	講義	
8		3) 地域包括ケアシステムにおける看護の役 割 3. 地域で暮らし続けることを支援するための マネジメント 1) 自己決定支援 2) ケアマネジメントの概念と機能 3) 保健行動と行動変容 4) インフォーマルサービスとネットワーク	講義	

9	個人・家族を支える 環境としての地域の 理解Ⅱ	3) 拠点となる地域の地域特性、健康支援活動の実際 (1) 地域の概要 (人口、家族形態・世帯構造、産業) (2) 生活環境 (地理的条件、交通、流通、住環境、 大気汚染・騒音、治安) (3) 健康支援活動 (自治会等の地区組織活動、ボランティア・NPO 活動、保健・医療・介護・福祉サービスとの連携)	講義	
10		4) 拠点となる地域に暮らす世帯構造に合わせた生活の理解	GW	
11		5) 拠点となる地域の実際Ⅰ (1) フィールドワーク (2)発表準備 (3)発表	演習	
12				
13			GW	
14			発表	
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、レポート内容			
使用テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	地域・在宅看護の基盤 家族看護学	医学書院 医学書院	
自己学習 時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。	

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ (在宅療養を支える看護)		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間（単位）	15 時間（1）	
講師名	非常勤講師				
科目目標	1. 地域における在宅看護を理解する 2. 在宅看護における看護の機能と役割を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	地域における在宅看護	1. 在宅看護の目指すもの 2. 在宅看護の対象者と特徴 1) 対象者 2) 対象者の主病傷		講義	
2		3. 在宅看護の位置づけ 4. 在宅看護の特徴 1) 自己決定支援 2) 生活の自立支援 5. 在宅看護が提供される場			
3	在宅看護における看護師の役割と機能	1. 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 2. 在宅看護における看護師の倫理			
4	在宅における家族看護	1. 家族の理解 1) 家族システム理論 2) 家族発達理論 3) 家族ストレス対処理論			
5		2. 家族介護者の現状と課題 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族アセスメント 3) 家族への支援 (1) 介護方法の指導 (2) 家族の健康支援			
6	在宅看護のしくみ	1. 訪問看護制度の創設と発展経緯 2. ケアマネジメントの概念と機能 3. 介護保険制度			
7		4. 訪問看護制度			
7.5	単位認定試験				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 系統看護学講座 家族看護学 医学書院				
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	地域・在宅看護論Ⅰを復習して講義に望む。 テキストで事前学習・事後学習を行う。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	地域・在宅看護援助技術		対象学生・時期	2 年生・前期		
			講義時間（単位）	30 時間（1）		
講師名	非常勤講師					
科目目標	1. 在宅看護活動を支えるコミュニケーション技術を習得する 2. 在宅看護に共通する技術を習得する 3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護について理解する					
回数	主題		主な学習内容		授業形態	担当
1	暮らしの場で看護をするための心構え		1. 地域・在宅看護とは 2. セルフケアを支える対話・コミュニケーション		講義	
2	地域・在宅看護における安全を守る看護		1. 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 2. 地域・在宅実践におけるリスクマネジメント		講義	
3	地域における暮らしを支える看護実践		1. 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術			
4			2. 活動・休息に関する地域・在宅看護技術		講義	
5			3. 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術		講義	
6			4. 排泄に関する地域・在宅看護技術		講義	
7			1) 摘便		演習	
8			5. 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護		講義	
9			1) 入浴介助の実際		演習	
10						
11			6. 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術		講義	
12			7. 呼吸・循環に関する地域在宅看護技術		講義	
13			8. 創傷管理に関する地域・在宅看護		講義	
14			9. 与薬に関する地域・在宅看護技術		講義	
15	単位認定試験		まとめ			
評価方法	配点 100 点 筆記試験、レポート					
使用テキスト	・系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ・系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院					
備考	評価は各担当講師によって筆記またはレポートとなる。 合計 100 点とする。					
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前・事後学習を行う			

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	地域・在宅で療養する対象の看護	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴を理解する 2. 療養の場の移行に伴う看護を理解する 3. 在宅で療養する対象の状況に合わせた看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	療養の場の移行	1. 在宅療養者を取り巻く環境 1) 地域社会の中で暮らす 2) 健康レベルに合わせて療養環境を整える	講義	
2	在宅で療養する対象への看護	1. ケアマネジメントの概念 2. 家族看護 1) 生活ニーズ（家族の危機と再構成）		
3		2) 家族システムと家族看護		
4		3. 地域での支援 1) 社会資源 2) 意思決定支援		
5		3) サービスの導入と調整 （人権保障、チームケア、連携）		
6				
7	在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴	1. ケアマネジメントの過程 ①インテーク ②アセスメント ③プランニング ④実施 ⑤モニタリング ⑥評価	講義	
8	在宅療養者の状態に応じた看護	1. 精神障害で療養する対象者 1) 対象となる人の理解 2) 看護の実践 3) 看護の評価	講義 演習	
9		2. 脳卒中を起こした患者の在宅看護 1) 退院（転院）の流れ 2) ケアプランと看護計画	講義	
10		3. 終末期の看護 1) 疼痛コントロール 2) 看取りにおける看護師の役割 3) 在宅ケアチーム、チーム医療		
11		4. 慢性疾患の療養者に対する在宅看護 1) パーキンソン病の症状とケア 2) 在宅ケアの連携について 3) 在宅・病院・施設の選択 4) パーキンソン病患者の QOL	講義	

12		5. 神経難病の療養者に対する在宅看護 1) 難病の在宅看護 2) 心理的ケア・アセスメント 3) 事例に沿った在宅看護 4) 看護小規模多機能型サービス	講義	
13		6. 認知症の療養者に対する在宅看護 1) 認知症の療養生活 2) 家族看護 3) せん妄の看護 自尊感情へのアプローチ		
14		7. 在宅で療養する小児と家族に対する在宅看護 1) 療養者についての情報 2) 退院時のカンファレンス 3) 日常の看護の実際 きょうだい児への支援		
15	単位認定試験 まとめ			
評価方法	筆記試験 100 点			
使用テキスト	・系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ・系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 ・系統看護学講座 家族看護学 医学書院			
自己学習 時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。	

＊この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	地域・在宅看護論演習	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 在宅の対象者への日常生活援助と頼庄野機能の維持・向上に向けた支援を理解する。 2. 在宅看護の展開方法を習得する。			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	在宅における生活支援の方法	1. 在宅における日常生活援助 1) 呼吸 2) 食生活・嚥下 3) 排泄 4) 移動・移乗 5) 清潔 2. 介護用品の活用	講義	
2	在宅における対象の機能の維持・向上に向けた支援	1. 身体機能の評価 2. 在宅でのリハビリテーション 3. 多職種との連携		
3		4. 生活を支えるサービスと費用Ⅰ	GW	
4		5. 生活を支えるサービスと費用Ⅱ	発表	
5	在宅看護における看護過程の展開	1. 在宅看護における看護過程 2. 在宅看護介入時期別の特徴と看護計画 3. 訪問看護導入のプロセス	講義	
6		4. 事例 1) 在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院する ALS 療養者 3) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 4) 重症心身障害を持ちながら地域で生活する小児 5. 訪問看護のマナー	講義 GW	
7		6. 訪問看護師のマナーと訪問看護導入のプロセス行動の理解 1) 初回訪問場面の実施	ロール プレイ	
8		7. 看護過程の展開 1) 初回訪問で得られた情報の整理 2) アセスメント	GW	
9			3) 看護問題抽出 4) 優先順位の検討 5) 看護計画立案	GW

10		6) 看護計画内容の共有		発表	
11		8. 事例の場面検討 1) 脳卒中後遺症のある高齢者 (1) 介護者の介護負担の軽減の検討		講義	
12		2) 在宅での生活に不安のある ALS 療養者 (1) 人工呼吸器を装着している療養者とその家族への支援 (2) 停電時や災害時に備えた危機管理の視点			
13		3) ターミナル期のがん療養者 (1) 家族への麻薬の取り扱いの指導 (2) 看取りの意思を再確認した時点での看護計画			
14		4) 重症心身障害をもつ小児 (1) 人工呼吸器の管理 (2) 小児の経管栄養 (3) レスパイト等の社会制度			
15	単位認定試験 まとめ				
評価方法	配点 100 点 筆記試験、演習の参加状況、課題提出、発表等				
使用テキスト	・系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ・系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院				
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習		テキストで事前・事後学習を行う 課題に取り組む	